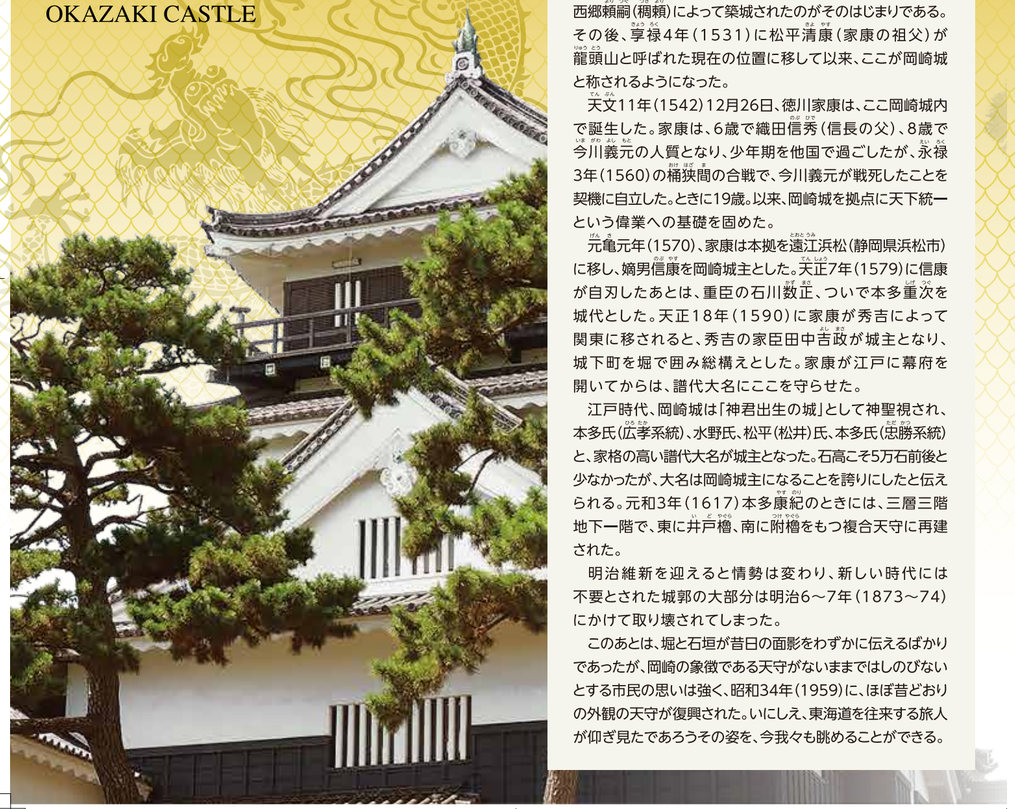
神君出生の城

岡崎城

OKAZAKI CASTLE



神君出生の城

岡崎城

別　名	龍城・龍ヶ城
種　別	平山城
築城者	西郷頼嗣(稠頼)
築城年	享徳元年(1452)～康正元年(1455)
構　造	鉄筋コンクリート3層5階(昭和34年復興天守)

岡崎城の沿革

岡崎城の起源は15世紀中頃までさかのぼる。明大寺の地に西郷頼嗣(稠頼)によって築城されたのがそのはじまりである。その後、享禄4年(1531)に松平清康(家康の祖父)が龍頭山と呼ばれた現在の位置に移して以来、ここが岡崎城と称されるようになった。

天文11年(1542)12月26日、徳川家康は、ここ岡崎城内で誕生した。家康は、6歳で織田信秀(信長の父)、8歳で今川義元の人質となり、少年期を他国で過ごしたが、永禄3年(1560)の桶狭間の合戦で、今川義元が戦死したことを契機に自立した。ときに19歳。以来、岡崎城を拠点に天下統一という偉業への基礎を固めた。

元亀元年(1570)、家康は本拠を遠江浜松(静岡県浜松市)に移し、嫡男信康を岡崎城主とした。天正7年(1579)に信康が自刃したあとは、重臣の石川数正、ついで本多重次を城代とした。天正18年(1590)に家康が秀吉によって関東に移されると、秀吉の家臣田中吉政が城主となり、城下町を堀で囲み総構えとした。家康が江戸に幕府を開いてからは、譜代大名にここを守らせた。

江戸時代、岡崎城は「神君出生の城」として神聖視され、本多氏(広孝系統)、水野氏、松平(松井)氏、本多氏(忠勝系統)と、家格の高い譜代大名が城主となった。石高こそ5万石前後と少なかったが、大名は岡崎城主になることを誇りにしたと伝えられる。元和3年(1617)本多康紀のときには、三層三階地下一階で、東に井戸櫓、南に附櫓をもつ複合天守に再建された。

明治維新を迎えると情勢は変わり、新しい時代には不要とされた城郭の大部分は明治6～7年(1873～74)にかけて取り壊されてしまった。

このあとは、堀と石垣が昔日の面影をわずかに伝えるばかりであったが、岡崎の象徴である天守がないままではしのびないとする市民の思いは強く、昭和34年(1959)に、ほぼ昔どおりの外観の天守が復興された。いにしえ、東海道を往来する旅人が仰ぎ見たであろうその姿を、今我々も眺めることができる。

総構え

総構えとは、城郭主要部の内郭および街道で結ばれる城下町を含む外郭と合わせた城郭構造のことをいう。田中吉政は天守創建や主要地点の石垣化などの他、岡崎城に「田中堀」と呼ばれる総堀を構築した。東側は谷地形、西側は河川などを利用して整備し、北側は台地上に堀を開削して総堀とした。岡崎城の総構えは、東西約1.5km南北約1kmに及ぶ広範囲なものである。

歴代岡崎城主(城主期間)

西郷頼嗣(稠頼)	
松平光重	
松平信貞	(西郷信貞)
松平清康	1524～1535
松平広忠	1535～1549
―― 今川氏城代 ――	
徳川家康	1560～1570
松平信康	1570～1579
―― 徳川氏城代 ――	
田中吉政	1590～1600
本多康重	1601～1611
本多康紀	1611～1623
本多忠利	1623～1645
本多利長	1645 承すぐ移封
水野忠善	1645～1676
水野忠春	1676～1692
水野忠盈	1692～1699
水野忠之	1699～1730
水野忠輝	1730～1737
水野忠辰	1737～1752
水野忠任	1752～1762
松平康福	1762～1769
本多忠鼎	1769～1777
本多忠典	1777～1790
本多忠顕	1790～1821
本多忠考	1821～1835
本多忠民	1835～1869
本多忠直	1869～1871
―― 廃藩置県 ――	

5F 展望室 天守からの眺め

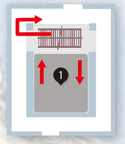
最上階からは、徳川家康を育んだ三河の山河や岡崎城下が望めます。岡崎城下まち歩きの案内コーナーもあります。

❶ 岡崎城下町あんないじょ

4F 岡崎城シアター

岡崎城総構えを歩くと、江戸時代の城下町の映像が現れタイムスリップ。
壁3面＋床面に投影された、没入感のある美しい映像と音響が楽しめます。

❶ 岡崎城シアター



3F 庶民の活気 岡崎城下町

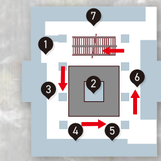
五万石の岡崎城を支えた城下町のくらしと文化を紹介。現代に技術を伝える石工、八丁味噌、花火などの伝統産業に関する資料を展示。

❶ 庶民の活気 岡崎城下町
❷ 岡崎の伝統産業
❸ 岡崎にぎわいジオラマ解説
❹ 岡崎城下の街道と舟運
❺ 土場と宿場
❻ 城下町の繁栄
❼ 岡崎城下の寺社
❽ 岡崎の祭り
❾ 岡崎城の被災と近代化

2F 家康が生まれた城 岡崎城

岡崎城の成り立ちと造りを紹介。
岡崎城の特徴を城郭模型と城絵図で楽しく学べます。刀剣や発掘調査の出土品も展示。

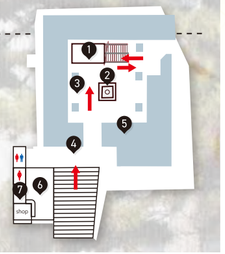
❶ 家康が生まれた城 岡崎城
❷ 岡崎城カタチ発見!
❸ 岡崎城の成り立ち
❹ 土造りの城から石垣の城へ
❺ 藩主の住まい、家臣の住まい
❻ 藩主と家臣のくらし
❼ 三河ゆかりの刀剣



1F 天守台穴蔵と心礎・用材

岡崎城天守を支えた天守台石垣の穴蔵と心礎が、江戸時代の姿を伝えます。
(※礎石が現存するのは、岡崎城と姫路城のみ)城内建物に使われた鯱瓦や用材も展示しています。

❶ 受付(券売所)
❷ 岡崎城を支えた心柱の礎石
※心柱は三階まであったと考えられている
❸ 鯱瓦
❹ 天守台石垣と穴蔵
❺ 用材
❻ 休憩所
❼ 授乳室



岡崎公園 ～施設名称案内～

利用の案内

◆入館料

	大 人(中学生以上)	小 人(5歳以上)
一 般	300円	150円
団 体 (20人以上)	240円	120円
割 引	250円	120円
市民割 (高校生以上)	150円	–
岡崎城・大河ドラマ館共通券 小学生以上一律	890円	

以下の方は岡崎城への入場が無料となります。お申し出ください。

- 岡崎市内在住または在学の幼児(5歳以上)から中学生までの方は「生徒手帳・わくわくカード」をご提示ください。
- 岡崎市内在住の65歳以上の方は「免許証など住所、生年月日を証明できるもの」をご提示ください。
- 各種手帳(身体障がい者手帳・療育手帳・精神障がい者保健福祉手帳・戦傷病者手帳・被爆者健康手帳)をお持ちの方はご提示ください。

◆駐車場について　有料駐車場(詳細はホームページをご確認ください。)

◆開館時間　午前9時～午後5時(入館は4時半まで)

◆休館日　「どうする家康 岡崎 大河ドラマ館」開館期間中(令和5年1月21日～令和6年1月8日)は無休

◆所在地　〒444-0052
愛知県岡崎市康生町561-1・岡崎公園内
TEL:(0564)22-2122
FAX:(0564)22-2201(岡崎城)

◀岡崎城関連リンク集
https://lit.link/okazakipark

園内の飲食店の情報はこちらから

いちかわ

ひょうたんや

桜茶屋

八千代